

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】令和 3 年 3 月 4 日 (2021.3.4)

【公表番号】特表 2020-514120 (P2020-514120A)

【公表日】令和 2 年 5 月 21 日 (2020.5.21)

【年通号数】公開・登録公報 2020-020

【出願番号】特願 2019-539946 (P2019-539946)

【国際特許分類】

**B 2 9 C 49/68 (2006.01)**

**B 2 9 B 13/02 (2006.01)**

【F I】

B 2 9 C 49/68

B 2 9 B 13/02

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 1 月 20 日 (2021.1.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱可塑性材料製プリフォーム (10) を加熱するための装置 (1) であって、所定の経路 (200) に沿って前記プリフォームを動かすことを目的とする、長手方向の延在軸 (100) を有するプリフォーム (10) のための搬送デバイス (2) と、前記所定の経路 (200) の少なくとも 1 つの部分に沿って配置される加熱手段 (3) とを備え、前記加熱手段 (3) は少なくとも 1 つの発熱要素 (4) と少なくとも 1 つの前方反射要素 (5) とを備え、少なくとも 1 つの発熱要素 (4) と少なくとも 1 つの前方反射要素 (5) とはそれらの間に前記プリフォーム (10) のための通過トンネルを形成するために前記所定の経路 (200) に対して互いに反対にあり、前記発熱要素 (4) は複数の I R (赤外) および / または N I R (近赤外) ランプを備え、前記プリフォーム (10) の延在軸 (100) に対して実質的に平行に延在する、前記所定の経路 (200) に対して比較的近い部分 (6a) と離間した部分 (6b) との交互配置を前記所定の経路 (200) の延在方向に形成するために、前記前方反射要素 (5) は少なくとも 1 つの輪郭付けされた板状体 (6) を備え、前記比較的近い部分 (6a) と前記離間した部分 (6b) とは実質的に平坦な面に形成され、前記板状体は連続する離間した部分 (6b) と比較的近い部分 (6a) との間にそれぞれの連結部品 (6c) を備え、少なくとも 1 つの前記連結部品 (6c) は冷却空気流のための少なくとも 1 つの通過開口 (6d) を備えることを特徴とする、装置。

【請求項 2】

前記比較的近い部分 (6a) と前記離間した部分 (6b) とは前記プリフォーム (10) の全体長に沿って延在することを特徴とする、請求項 1 に記載の装置 (1)。

【請求項 3】

前記発熱要素 (4) は少なくとも 1 つの後方反射体 (4b) を備えることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の装置 (1)。

【請求項 4】

前記後方反射体 (4b) は前記所定の経路に向けられ、それぞれのランプ (4a) の周りに少なくとも部分的に自身を配置するように構成される凹面を有する収容部分の交互配

置を形成するために、反射性の輪郭付けされた板状要素を備えることを特徴とする、請求項 3に記載の装置（１）。

【請求項 5】

前記收容部分は前記プリフォーム（１０）の延在軸（１００）に対して実質的に平行に延在する、前記所定の経路に対して比較的近い部分と離間した部分との交互配置によって形成されることを特徴とする、請求項 4に記載の装置（１）。

【請求項 6】

前記後方反射体（４ｂ）は前記プリフォーム（１０）の延在軸（１００）に対して実質的に平行に延在する、前記所定の経路（２００）に対して比較的近い部分（１６ａ）と離間した部分（１６ｂ）との交互配置を前記所定の経路の延在方向に形成するために輪郭付けされた少なくとも１つの板状体を備えることを特徴とする、請求項 3 ～ 5のいずれか１項に記載の装置（１）。

【請求項 7】

前記輪郭付けされた板状体は実質的に金属から作られることを特徴とする、請求項 1 ～ 6のいずれか１項に記載の装置（１）。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２９】

可能な構造変形例に従い、板状体 6 は、連続する離間した部分 6 b と比較的近い部分 6 a との間に、それぞれの連結部品 6 c を備える。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３１】

好ましくは、図 2 ～ 図 4 に示されるように、少なくとも１つの比較的近い部分 6 a は、それぞれの離間した部分 6 b への連結のための部品 6 c の両方において、冷却空気流のための少なくとも１つの通過開口 6 d を有する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３９】

可能な構造変形例に従い、板状体 16 は、連続する離間した部分 16 b と比較的近い部分 16 a との間に、それぞれの連結部品 16 c を備える。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００４１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００４１】

便利に、図 9 ～ 図 10 に示されるように、少なくとも１つの比較的近い部分 16 a は、それぞれの離間した部分 16 b への連結のための両方の部品 16 c において、冷却空気ストリームのための少なくとも１つの通過開口 16 d を有する。